

同じゴールを目指しても・・・

1911年12月14日、ノルウェーの探検家ローアル・アムンゼンが人類史上初めて南極点に到達しました。

アムンゼンは、南極点到達をイギリスの探検家スコットと争っていました。アムンゼンは先に南極点到達をし、無事に帰還した後、北極点到達も果たして後世に名を残しています。しかし、スコットの一行は、アムンゼンとの競争に破れ、引き返す途中で、全員、氷の上で最期を迎えることになります。

この2人を比較して、「アムンゼンは運が良かったのだ」とか、「スコットは悲劇の主人公だ」などと評されることもありますが、同じゴールを目指していても、この2人には大きな違いがありました。



まず、最初から「やる気」が違いました。アムンゼンは、酷寒の地の探検に備えて、体力作りやスキーの練習に余念がなかったのに対して、スコットは、もともと海軍の提督になるつもりで探検家にはなる気がなかったのです。

また、アムンゼンは、隊員たちにいちいち細かい指示をせず、指揮権を委譲していたのに対し、スコットの方は、イギリス海軍式の階級制度を用い、言われた命令に忠実に従うようにしていたといいます。「あれしろ」、「これしろ」と言われるままにしか行動しないようでは、指揮官のミスが命取りになるのです。勿論、指揮官の命令に従わなければ、チームは組めませんが、それぞれの隊員が「考える」細胞（スタッフ）でなければ、本当の意味でのチームワークは出来ません。

さらに、この2人には、「戦術」の面でも決定的な違いがありました。それは、ソリを引っ張るのに、アムンゼンが犬を使ったのに対し、スコットは馬を使ったのでした。寒さに強い犬と弱い馬とでは、最初から話になりません。2人の結果は当然だったというべきでしょう。

同じゴールを目指しても、
「やる気」のある人とそうでない人、
言われるままにしか出来ない人と自分から**考えて行動できる人**、
「戦術」(方法)の正しい人と間違っている人とでは、
差が出てくるのは当たり前です。

自分の進路に向けて、
自ら「やる気」を出し、
言われるままでなく自分から積極的に考えて、
正しい方法で取り組むようにしましょう。

